

霧箱工作教室



霧箱の中の放射線を観察する親子

3月1日(日)ららぽーと柏の葉2階クリスタルコートでサイエンスカフェINららぽーと柏の葉が行なわれた。
素粒子論が専門で東京大学宇宙線研究所特任助教伊藤英男さんを講師として、気軽なお茶を飲みながらのサイエンスカフェの形式で紹介するとともに、NPOサイエンスステーションの学生に実験で科学をより身近に、親子で楽しもう！

よる、眼に見えない放射線を見えるようにしてみよう。霧箱工作教室が行なわれた。

霧箱工作教室は大人気で、参加希望の親子でいっぱいとなった。20分ほどの作成時間で、順番に工作をして約200人の親子が霧箱を作り、放射線を観察することができた。今回の実験は、キャンプなどで使うランプの芯には、人体に影響がない程度の放射性物質が含まれている物があり、それをプラスチックケースのなかで発生させて観察するもの。ケースの中で、飛行機雲のような線が放射状に見える。「見

えた見えた！」とあちらこちらで声が挙がった。

理科大好きの小6男の子は「日用品でこんなに見えることに驚いてます」と目を丸くしていた。また小3、年長2人の女の子のお父さんは「理科はあまり身近ではないので、身近なことから興味を持って理科を好きになつてくれれば」と話し、小3のお姉ちゃんも「実験は楽しいから好き」と目を輝かせていた。伊藤先生は「ペーパーで学べない実験の中にある、理科の楽しさを感じてもらえれば」と語った。

約50席のサイエンスカフェは満席で、参加者

の中には親子連れも見られた。子供たちからは「宇宙に果てはあるの？」「ビッグバンの原因は？」などの質問が活発で、先生は一つひとつ丁寧に答えていた。